

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和元年度第1回相模原市立図書館協議会		
事務局 (担当課)		相模原市立図書館 電話：042-754-3604 (直通)		
開催日時		令和元年5月23日(木) 午後6時00分～午後8時15分		
開催場所		相模原市立図書館 2階 中集会室		
出席者	委員	9人(別紙のとおり)		
	その他	3人(生涯学習課担当課長、同副主席、同主任)		
	事務局	9人(図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他6人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<p>1 議題</p> <p>(1) 次期相模原市図書館基本計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本理念、基本目標、施策の方向について ・中央図書館機能について <p>(2) 次期相模原市子ども読書活動推進計画について</p> <p>(3) 平成30年度事業報告について</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・淵野辺駅南口周辺のまちづくりについて <p>(2) その他</p>		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局等の発言)

1 議 題

(1) 次期相模原市図書館基本計画について

事務局から資料に基づき説明をし、質疑応答を行った。

【資料1-1】図書館協議会における今後の予定

【資料1-2】次期図書館基本計画～基本理念、基本目標、施策の方向について

【資料1-3】現図書館基本計画における基本理念・基本目標等

- 資料1-2において、「人」と「まち」、「市民」と「地域」といった同じような概念があるが、それぞれどのような捉え方で使用しているのか。
- 「人」については、「市民」を中心とした市を行き交う人達を想定しているが、「市民」との使い分けについては検討していきたい。
「まち」については、「人」がいて、生活を営んでいくところということで、ハード面だけでなく文化などのソフト面も含めた意味であり、広く言えば相模原市を想定している。また、人と人とのコミュニティという意味でもある。「地域」との使い分けも含め、言葉の使い方については検討していきたい。
- 資料の中に、抽象的な表現が多いと感じる。「市民」と言えば、計画を読んだ方が様々な市民像を思い浮かべるのではないか。
- 用語については、用語間の関連性や全体的なトーンも含めて、もう少し整理をお願いしたい。
- 資料1-2の1ページ「3 本市図書館の課題」(3)に「より幅広い取組が求められている」とあるが、誰から求められているのか確認したい。
- 直接的には、図書館利用者となり得る市民等であり、また、社会的な要請でもあると考えている。
- 資料1-2の2ページ「基本目標1 生涯にわたる豊かな学びを支える図書館」及び「基本目標2 市民や地域の活力を支える図書館」に「支える」という表現があるが、「育む」や「活力を与える」など、図書館の関わりが感じ取れるより積極的な表現であっても良いのではないか。
- 表現を検討する。
- 資料1-2の3ページ「施策の方向② より身近な図書館サービスの提供」について、近隣に図書館が無い方へどのようなアピールができるのかを考えた時に、例えば「迅速さ」を積極的に打ち出すことが考えられる。近くの公民館に図書館から翌日までに本が届くなど、近隣にたくさんの蔵書が無いという状況をカバーできるようなアピールポイントになり得るのではないか。

- どのような取組ができるか、検討したい。
- 資料1-2の3ページ「施策の方向③ 多様な利用者に向けたきめ細かいサービスの充実」の中で、日本語母語話者以外を対象とした取組例が挙げられているが、一方で市民の国際化を促すような多文化サービスといった視点も今後重要性を増してくると考える。
- 日本人が多文化理解を深めていくことは重要な視点であると思うので、計画の中でどのように表現するのか検討したい。
- 資料1-2の3ページ「施策の方向④ ICTを活用したサービス向上」について、取組例に「検討」とあるが導入はしないのか。また、実施にあたっては、特にデジタルアーカイブは他部署等との連携が欠かせないものとする。
- 今後上位計画で査定を受けていく部分もあるため、現時点では「検討」としている。
- 資料1-2の4ページ「施策の方向② 行政テーマと連携した情報提供・発信」について、行政課題に対する図書館の関わりということであるならば、他自治体でも事例があるが、行政職員に対する情報提供や情報発信という視点も含まれてくるのではないかと考える。
- 現在も市内レファレンス等のサービスを実施しているが、周知及び利用が充分ではない等の課題がある。計画への反映については、検討したい。
- 資料1-2の6ページ「基本目標4 将来にわたり進化し続ける図書館」について、図書館が進化し続けていくには、職員が能力を向上させていく必要があるため、職員体制や職員研修の充実を加えても良いのではないかと考える。
- 人材育成については中央図書館機能の中には含まれており、基本目標との連動した記載を検討する。
- 資料1-2の4ページ「施策の方向② 行政テーマと連携した情報提供・発信」について、どのような行政テーマがあって、どのように連携していくか分かりにくい。より具体的に取組例を記載してほしい。
- 計画期間を8年と考えており、期間中に様々な行政テーマが出てくるのが想定されるので、この資料中では特定の事業等を記載することはしていない。
- 8年間の中で、この施策で行うことが変わるといえることか。
- その時点のテーマに応じて対応が必要と考えている。
- 資料1-2の5ページ「施策の方向① 子どもが本にふれあう機会の充実」において、本と子どもの居場所を結びつけるような機能は考えられないかと考える。
- 「施策の方向② 読書の楽しさを伝えあう取組の推進」の中に含まれてくると考えている。具体的な取組としてはまだ進めていないが、読書の機会の提供やきっかけづくり等を通じて、方向性として検討していくことは十分に可能と考える。

- 資料1-2の3ページ「施策の方向① 蔵書、利用環境の充実」について、各図書館で状況は異なると思われるので、館ごとに記載してはどうか。
- 各図書館で具体的な状況には違いがある一方で、計画的な蔵書構築や選書など、市図書館全体としての取組として記載している。各館特有の課題等については、今後計画を具体化していく中で考慮したい。
- 市図書館全体の計画である一方で、全体で実現することと、各館で実現することの振り分けもあるのではないかと思うが、それを計画でどのように表すかは難しいと感じる。
- 現状で示すことは難しいが、今後具体的な施策の中で整理し、検討していきたい。
- 利用する人を想像すると、施策もまとまってくるのではないか。それが、利用している人なのか、利用したことがない人なのか、将来利用する人なのか、人を主役として考えた時に、それぞれの生活とつながる部分が出せるとより分かりやすい。

【資料1-4】中央図書館機能～具体的機能の検討～

【資料1-5】中央図書館機能を備えた図書館ネットワーク

【資料1-6】新しい中央図書館の設置に向けて（提案）

- 資料1-6の(3)「多種多様な媒体による資料の整備」⑦に「LLブック」とあるが、相模原市では所蔵しているのか。
- 所蔵はしているが、出版点数自体が少なく、所蔵点数もまだ少ない。徐々に広まってきているようなので、図書館としてもできるだけ収集していきたいと考えている。
- 資料1-4の2ページ「具体的機能の検討」において、現在担っている機能を掲げ、今後担う機能を整理したのは分かりやすい。一方で、現在担っている機能の中に「企画・統括機能及び人材育成機能の一部を実施している」とある。この点については、現在一部実施している機能と、市立図書館が中央図書館に移行することで実施する機能を明確にし、後者を強調点として整理しておくことで、中央図書館機能が必要な根拠も明確になると考える。
- 資料1-6の1(2)「ICT環境の整備」については賛成する。情報収集の目的に限らず、PC等の情報機器を誰もが等しく、気軽に使える環境があると良い。
- 資料1-6の2「学校図書館支援センター」について、現在は設置していないという理解で良いか。
- 組織としては設置していない。学校連携、研修の実施、資料の充実等の「学校図書館支援センター」で求められる機能については、例えば団体貸出や研修等の取組を実施している。次期子ども読書活動推進計画においても、機能面での充実

を図りたい。

- 学校図書館支援センター機能を持つためには、主として業務を担う専門的な職員がいないと実施が難しいのではないかと。
- 図書館だけではなく、教育センターとの連携など、教育委員会において役割分担を明確にしながら検討していきたい。
- 資料1-6の3(1)「障害者読書バリアフリーセンターの設置」の中でサービス対象者が挙げられているが、知的障害者も対象とするなど、対象者はより広く考えていただきたい。
- 資料1-6の5「図書館関係団体、ボランティア等の活動拠点の整備」について、図書館で活動している団体に限らず、広く市民のグループに開かれた活動拠点となると良い。
- 資料1-4の2ページ「具体的機能の検討」について、今後担う機能は、現在は実施していないのか。
- 各館それぞれでやっている部分もあるので、新たな機能なのか、強化する機能なのか、明確にできるよう整理していきたい。
- 中央図書館機能が充実することによって、相模大野や橋本で新たなサービスが可能になるなどのプラス面も出していけると良い。
- 中央図書館の機能だけではなく、地域の図書館の役割や方向性も示すことによって、計画を受け取る側も安心できるのではないかと。
- 図書館に行きたくても行けない、利用の仕方が分からない利用者なども含め、全市的にきめ細かいサービスを行えるような機能を担うことで、利用者の増加を目指せるのではないかと。
- 市民の側に立った中央図書館機能の追加をしてほしい。
- 次期図書館基本計画は、いつから始まるのか。
- 令和2年度からの8年間となる。
- 中央図書館機能の確立については、施設面の整備を待たずに取組んでいくという理解で良いかと。
- 組織体制の整備など時間がかかる部分もあるが、実施できるところから進めていきたい。

(2) 次期相模原市子ども読書活動推進計画について

事務局から資料に基づき説明をし、質疑応答を行った。

【資料2】第三次子ども読書活動推進計画（骨子案）

- 11ページの計画の推進体制について、「図書館が中心となって」とあるが、具体的に計画を推進する仕組みや体制はこれからつくっていくのか、それとも第

二次計画の際につくられているのか。

- 子どもの読書の推進については、図書館を事務局として、市の関係機関や地域の方々の力を借りながら進めていく。第二次計画でも実施しているが、それをベースに必要なものは加えていきたい。
- 第二次計画での課題については総括できており、それが第三次計画骨子案の基本方針に集約されていると考えて良いか。
- その通り。
- 子ども達が本に触れあう機会を増やすというのは大きい課題だが、子ども達だけの問題ではないので、次期基本計画においても課題として捉える必要があるのではないか。
- 今回の資料では具体的な施策は掲載していないが、社会状況の変化への対応という意味では、例えば次期基本計画で挙げている電子書籍の導入は、図書館に来館しなくても読書ができる環境を提供することにつながる。また、学校への支援については、学校への配送体制の充実なども今後求められていくのではないかと考えている。
- 放課後の子ども達の時間、部活や塾などを考えると学校だけでは支援しきれないと思うので、地域の支援も重要ではないか。
- 多くの中学校で朝読書を10分ほど実施しており、継続的に取り組むことで、本に対する興味や、公民館図書室等での本の貸出等に結びつけば良いと考えている。ただ、家庭で本に触れあう余裕がないのが現状で、そこは課題と考えている。家庭への支援として何ができるのか明確にし、どのように子ども達の読書活動を推進していくのかが見えてくると良い。
- スマートフォンの普及により、本に触れる機会が少なくなっているとも考えられるが、子どもだけでなくその保護者も本を読む機会がなくなっている。保護者へのアプローチを含め、家庭で本を読む機会を増やせると良い。
また、学校では読み聞かせのボランティア団体が来る機会はあるが、そうしたボランティア団体への支援の充実も必要ではないか。
教員は多忙であるため、専門員による学校内でのレファレンスも実施できると良い。
- 家庭で保護者が本を読む機会が少なくなっていると感じる。保護者が本から離れていれば、子どもへの働きかけもないのではないかと思う。子どもだけではなく、保護者が読書の楽しさを知るような支援があると良いのではないか。
- 家庭への支援については重要で、特に乳幼児期の関わりは大切だと感じている。ブックスタートやセカンドブックなど実施している事業もあるが、十分に活用していただけるように周知を図るとともに、乳幼児期の家庭での読書活動の意義について啓発が必要と考えている。

- 保護者自身が子どもに直接本を紹介できなくても、図書館へ行けばレファレンスサービス等の支援を受けられるという知識を、保護者や学校関係者等に伝えるというのも一つの方法だと思う。

(3) 平成30年度事業報告について
事務局から資料に基づき説明を行った。

2 その他

(1) 報告

- ・ 淵野辺駅南口周辺のまちづくりについて

3月30日に行われた、第2回次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会について、生涯学習課から資料に基づき報告した。

また、有識者協議会に参加した小山委員と、市民検討会に参加した高柳委員から、次のとおり報告があった。

- まち歩きということでハードの面に目がいったが、ソフト面を整備していけば、ハード面は自然とついてくるのではないかと感じた。有識者の講評の中で、便利さばかりを求めて粗探しをしてもマイナス1からゼロにしかないが、そうではなく豊かさとは何かを考えた上でテーマを決めていけると良いという意見があったのが印象的だった。

今後の市民検討会では豊かさの検討ができれば良いと考えるし、引き続き図書館協議会にもフィードバックをしていきたい。

- 各施設や鹿沼公園を歩いて見学した。土曜日の午前中ということで、その時間帯の利用実態は把握できたが、施設によっては本当の顔が見られなかったのかもしれない。

また、職員の方の説明を聞いて、各施設がそれぞれの思いをもってつくられているということも理解できた。新しい施設になったとしても、思いが伝わると良いと思う。

(2) その他

- 令和元年度第2回の図書館協議会は、7月中旬の実施を予定している。

以 上

相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	役 職	氏 名	所 属 等	出欠席
1	会 長	鈴木 良雄	専門図書館協議会事務局	出 席
2	副 会 長	高柳 眞木子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会	出 席
3	委 員	朴木 昇	相模原市立中学校長会	出 席
4	〃	佐藤 正文	相模原市立小学校長会	出 席
5	〃	藤嶋 直司	相模原市公民館連絡協議会	出 席
6	〃	金子 友枝	相模原市社会教育委員会議	出 席
7	〃	小山 憲司	中央大学文学部教授	出 席
8	〃	井狩 芳子	和泉短期大学児童福祉学科教授	出 席
9	〃	三木 涼子	公募	欠 席
10	〃	水田 繁生	公募	出 席